

[論文]

援助の質的向上に関する構成要素の検討

外崎紅馬

日本介護学会「介護福祉士」 8

2007年6月30日発行

福祉施設に入所をし、サービスを利用している利用者の生活ニーズには、人間にとって不可欠な衣食住を中心とした生命維持に関わる基本的ニーズと、自分らしさの維持や自己実現等、人間としての価値に関わる社会的、文化的、心理的ニーズがある。同時に福祉施設は、利用者の生活と密接に関わっており、利用者が福祉施設で生活をするということについて、その利用状況を理解し、適切な援助が検討、実施され、さらによりよいサービスの提供も期待されている。その期待に向けて、人間の尊厳や人権の尊重を基礎としつつ、利用者の意思や意向が考慮され、提供される援助に十分反映されるよう、福祉施設で働く職員は日々努力をしている。福祉施設では、生活そのものが集団生活の形態をとっているところがまだまだ多いため、生活場面によっては様々な集団援助が行われている。そのため、利用者の福祉施設内での生活の質(QOL)を確保するためには、「集団の中の個」という認識の下、利用者のQOLを高められる質の高い援助の提供が必要となる。そこで、福祉施設という空間的、時間的、人数的に限られた環境で援助を実践しなければならない状況において、本研究では特に社会福祉施設が日々の援助業務において何を意識しているのか示したものを分析・整理することによって、利用者の満足度を高めるためにはどのような点に意識を置くことがよりよい援助の提供につながるのか、援助の質を高めるために検討を要する要素が何であるのかについて明らかにした。

[講演]

児童を支援するソーシャルワーク手法

外崎紅馬

2007年6月7日

ウェルサンピア山形

財団法人 児童健全育成財団

児童健全育成事業の適切な運営のため、児童館・放課後児童クラブの充実の重要性と、児童厚生員の資質向上を目指し、児童を支援するためのソーシャルワーク手法について、現職の児童厚生員に対し指導を行った。

[講演]

傾聴ボランティアについて

外崎紅馬

2007年11月7日

原町区福社会館

福島県南相馬市民生児童委員協議会

福島県南相馬市で活動をしている民生児童委員90名に対して、地域の相談援助を实践するうえで求められる資質について講義を行い、特に相談時における面談姿勢と傾聴技法について具体的な指導を行った。